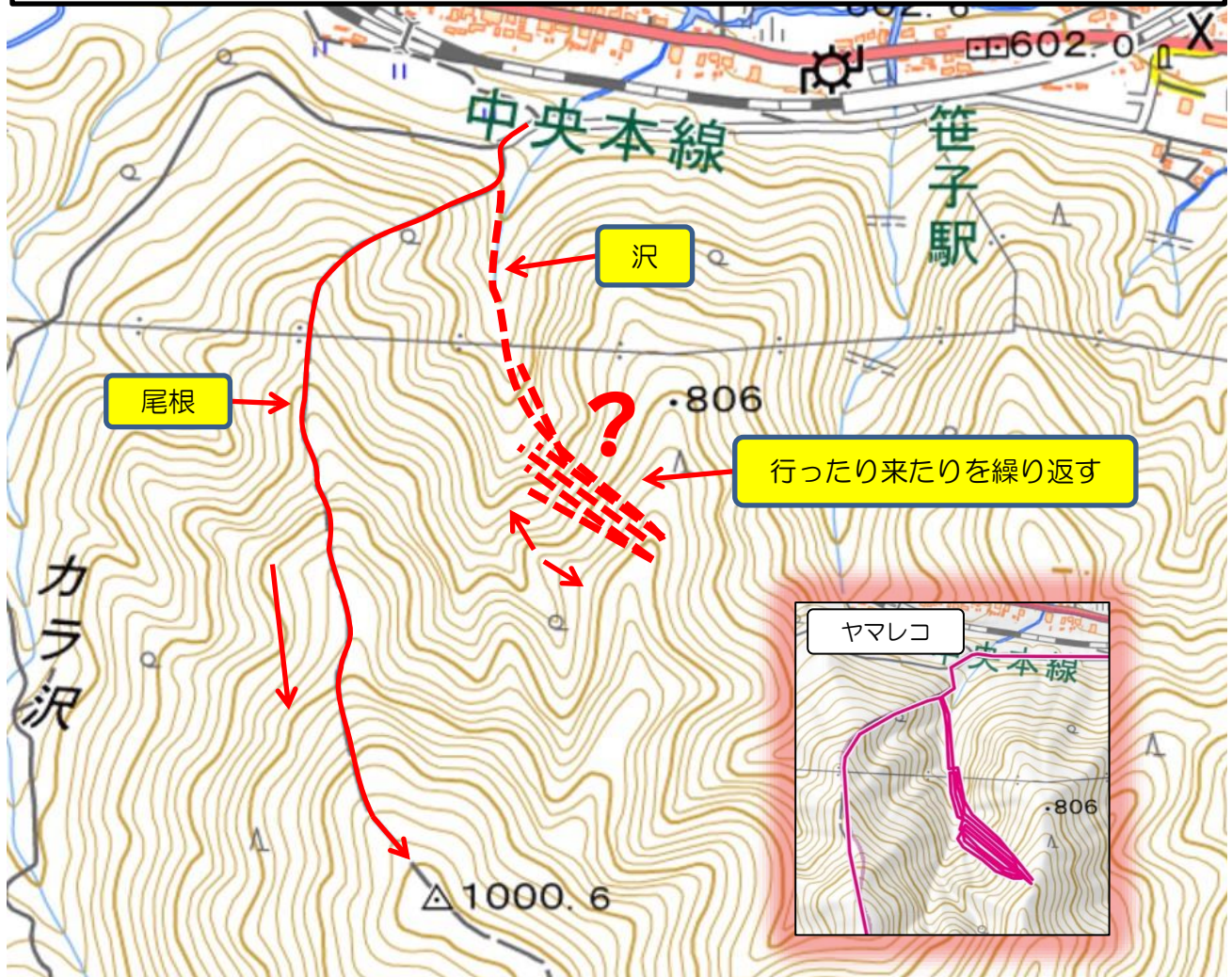


## 角研山道迷い(2021年5月)

立派な橋があったので、登山道と勘違いし進む。鉄塔付近には、ピンクテープやトラロープがあり、行ったり来たり。結局、来た道に戻り正ルートを発見した。



## 解説

登山口から間もなく目の前に橋が見えてくる。その橋を渡って登山道？を前に進む。鉄塔が出てくる。これが送電鉄塔と確信した。しかし、鉄塔の四隅を見ても登山道らしき道がない。1箇所右側に踏み込んだ箇所があり先に向かう。しかし、地面がふわふわしており登山道かと警戒する。木立の先を見ると木にペンキの赤丸あり、しかしその先にはない。戻った。

再び鉄塔周りを確認するが草に覆われ道が確認できない。さらに戻ったが鮮やかなピンクテープが登山道を主張しているかのようだ。おまけにトラロープまでもある。誘惑のロードだ。だからまた鉄塔まで行く。これを何度も繰り返すが道は途絶えてしまう。また戻る、その繰り返すである。ピンクテープが私を誘うのだ。(HP参照)

道迷いの心理は、「多分大丈夫と進み、いや違うと戻る」。この行動は、自分の中の自分と戦うため無駄な行動となり体力を費やしてしまう。「行動の根拠は？」「地図の先読みをしたのか？」「これから進む道は、尾根なのか沢なのか？」冷静に考えれば、なぜあんな行動をとってしまったのだろうと不思議になってしまう。これが、道迷いの心理である。普段から、地図の先読みが心掛け、根拠のある行動をするよう気を付けたい。